

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↑ 674	640	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 3	8	ヘルパンギーナ	↑ 15	12
咽頭結膜熱	↓ 15	20	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 40	44
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	↑ 74	62	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 561	531	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 7	11
水痘	↑ 68	58	細菌性髄膜炎	↓ 0	1
手足口病	↑ 4	1	無菌性髄膜炎	↑ 1	0
伝染性紅斑 (りんご病)	↑ 6	3	マイコプラズマ肺炎	→ 4	5
突発性発しん	→ 40	39	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い
感染症

- ☀️ インフルエンザ
- ☀️ 感染性胃腸炎
- ☀️ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 674 件(前週報告数 640 件)と増加。
地区別では、人吉、宇城、山鹿に多く報告がみられる。
年齢別では、10～14歳の161件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 561 件(前週報告数 531 件)と増加。
地区別では、菊池、有明、宇城に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の106件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 74 件(前週報告数 62 件)と増加。
地区別では、人吉、熊本、菊池に多く報告がみられる。
年齢別では、4歳及び5歳の11件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性レンサ球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミ ジア肺炎
熊本市保健所	220	2	4	38	181	38	1	1	10	0	0	12		6			1	3
山鹿保健所	28	0	0	0	33	3	0	0	2	0	0	0	*	*				
菊池保健所	49	0	7	7	76	9	1	2	10	0	1	2						
阿蘇保健所	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	11	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	64	0	0	6	47	1	0	1	1	0	1	5						
水俣保健所	4	0	0	1	14	5	1	0	2	0	0	7	*	*				
人吉保健所	129	0	0	13	34	1	0	0	3	0	2	2	*	*				
有明保健所	41	0	4	6	89	3	1	1	4	0	1	1		1				1
宇城保健所	73	0	0	1	50	2	0	1	3	0	0	6						
天草保健所	49	1	0	2	32	5	0	0	5	0	10	5						
計	674	3	15	74	561	68	4	6	40	0	15	40	0	7	0	1	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳 以上
インフルエンザ	674	1	5	25	28	43	41	43	72	55	45	34	161	33	22	22	21	12	4	5	2
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	3		3																		
咽頭結膜熱	15		3	2	1	4		2			2	1									
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74		1	1	5	7	11	11	5	9	10	3	9	1	1						
感染性胃腸炎	561	16	56	106	59	66	62	42	28	23	21	18	27	4	33						
水痘	68	1	5	12	20	15	8	5	2												
手足口病	4			2	1				1												
伝染性紅斑	6		1	3				2													
突発性発しん	40		22	17	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	15			5	2	4	1			1			2								
流行性耳下腺炎	40		1	2	1	3	12	5	4	3	1	2	6								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	7															3	2			2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	1			1																	
マイコプラズマ肺炎	4			3	1																
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生 又は継続しつつある地域

- インフルエンザ：人吉
- 感染性胃腸炎：山鹿
- 流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ



県全体のインフルエンザの患者報告数は、9週連続で減少していましたが、先週から増加に転じています。県全体では、警報レベルを脱していますが、地域ごとにとみると人吉地域は未だ警報レベルにあります。また、熊本・山鹿・御船・八代・人吉・有明・天草は、先週より増加しているほか、小学校や中学校からの学年・学級閉鎖の報告も続いています。昨年は、6月中旬まで学年・学級閉鎖が続き、今後もしばらくは注意が必要です。インフルエンザの診断情報では、約9割がB型となっています。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防には、①流行時には人混みを避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、インフルエンザにかかってしまった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。また、周りの人へうつさないために、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。

